

## 大船渡に泊まって Happy! 大作戦の成果

### ■事業概要

新型コロナウイルス感染症の影響により減少した観光客や宿泊の回復と、市内飲食店や商店の利用喚起を図るため、市独自の事業として、令和2年9月1日から令和3年2月28日までの期間で「大船渡に泊まって Happy! 大作戦」を実施しました。

▷参加施設＝ホテルルートイン大船渡、やすらぎの宿廣洋館、海鮮の宿ごいし荘別邸海さんぽ、海楽荘、大船渡温泉、大船渡インターホテル椿、フレアイランド尾崎岬、民宿刈谷ハイツC、旅館菊水館、大船渡プラザホテル、遊・YOU・亭夏虫、甬嶺復興交流推進センター

### ▷内容

・岩手県民対象＝市内の宿泊施設を利用する観光客(岩手県民)に、宿泊料金を上限に4,000円

を助成。併せて、市内飲食店や商店で使える1,000円分のクーポン券を交付。

・大船渡市民対象＝市内の宿泊施設を利用する市民に、宿泊料金を上限に5,000円を助成。

### ■事業の効果

事業開始にあたり、目標宿泊件数を、前年同期(令和元年9月～令和2年2月)に、岩手県民が市内の宿泊施設を利用した数とほぼ同数の1万件に設定しました。

事業開始以降、たくさんの県民の皆さんに利用していただき、1月末には宿泊実績と予約を合わせ9,932件に達しています。

また、市民からも「初めて泊まったことで、地元の魅力を発見できた」などの声が聞かれるなど、一定の効果がありました。



▶問い合わせ先＝観光推進室(☎内線114)

### 東日本大震災以降の観光客の推移

当市の観光客数は、東日本大震災の復興需要の収束に伴い、平成26年の110万人をピークに、平成28年から平成30年には約70万人で推移し、宿泊数も平成26年の51万人に対し、平成30年には約20万人まで減少しています。令和元年は、三陸沿岸道路の延伸や三陸鉄道全線開通などの復興事業や観光誘客の取り組みの成果により、観光客数は前年比13%増の79万人、宿泊数も前年比7%増の21万人と、いずれも前年を上回りました。

### 新型コロナウイルス感染症の影響

令和2年においては、3月頃から新型コロナウイルス感染症の影響が表れ始め、その後の国の緊急事態宣言の発令や外出自粛の呼び掛けなどにより、4月は前年同月の64%減となる2万2千人、ゴールデンウィークを含む5月は83%減の1万8千人と大幅に落

## 観光客の回復へ向けた市の取り組み

### ■観光ビジョンの成果

市は、平成26年度に「観光ビジョン」を策定し、三陸といったら真っ先に大船渡を思い浮かべる観光地を目標に、官民挙げて取り組んできました。

ビジョンの策定後、復興需要の収束とともに観光客数は減少しましたが、令和元年に再び増加に転じました。この変化は、震災直後の一過性のものと違い、復興事業や観光誘客の着実な取り組みの成果の表れとして今後に大きな期待を抱かせるものとなりました。

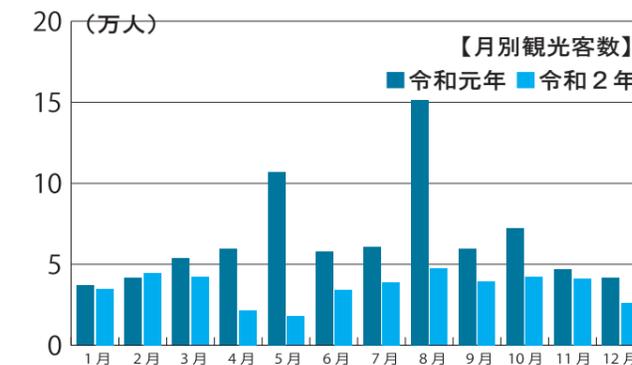
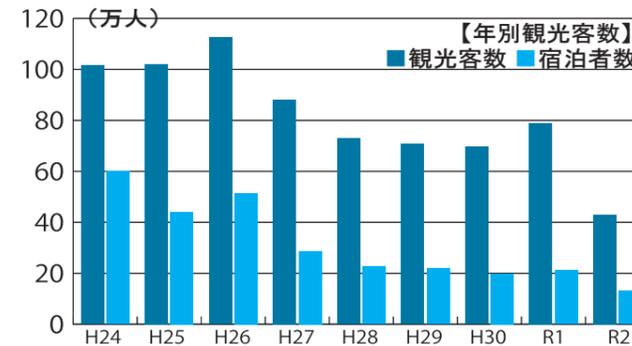
### ■今後の展望

世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、市内経済にも深刻な影響が生じており、今後はコロナ禍における生き残り、収束後を見据えたV字回復への取り組みが不可欠となっています。

宿泊業や観光施設、飲食・物販など幅広い産業分野への波及効果が高い観光は、人口減少基調が続く当市にとって、交流人口の拡大による地域経済活性化の切り札としてさらなる推進が求められています。

### ■第2次観光ビジョンの策定を進めています

現行ビジョンの取り組みから見てきた課題や、コロナ禍における観光のあり方を踏まえ、海の幸を中心とする食の魅力を高める取り組みや、日帰り観光に比べ消費額が大きい宿泊を伴う滞在型観光の推進などを基本方針とし、令和3年度から令和7年度を計画期間とした「第2次観光ビジョン」の策定を進めています。



ち込みました。5月の緊急事態宣言解除後は、徐々に増加しましたが、イベントの中止などが重なり、8月は前年同月の69%減となる4万8千人となりました。9月から11月は約4万人で推移し、例年閑散期となる11月は、令和元年とほぼ同数となりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大した12月には再び落ち込みました。



【けせんジオツアー】

を大きく下回り、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく表れた形となりました。